

助けてと言える社会

～困窮者支援における伴走支援～

奥田知志さん（東八幡キリスト教会 牧師、
NPO 法人抱樸 理事長、
ホームレス支援全国ネットワーク 理事長、
生活困窮者自立支援全国ネットワーク 共同代表）

えにしを結ぶ会 第2部『つつみ込む社会へ・I』 2018年4月21日（土）

助けてと言える社会 困窮者支援における伴走支援



奥田知志
東八幡キリスト教会 牧師
NPO法人抱樸 理事長
ホームレス支援全国ネットワーク理事長
生活困窮者自立支援全国ネットワーク 共同代表

NPO法人抱樸 概要

- ・活動開始1988年 **30年目**
 - ・ホームレスからの自立 3000人
 - ・**自立達成率 93%** (6ヶ月の自立プログラム)
 - ・**生活継続率 92%** ・**就労自立率 58%**
 - ・生活サポート実施 約2000名 (北九州・福岡・下関)
 - ・北九州市・下関市・福岡市・中間市に拠点
 - ・有給職員104名 (正規職員70名)
 - ・登録ボランティア約1500名
 - ・互助会約270名 (当事者約150名)
- ※17部署により **包括的総合支援を実施**(以下主な事業)

	職員	パート	全体
該当者数	5	11	16
母数	67	37	104
割合	7.5%	30.0%	15.4%

抱樸(ほうぼく)とは？(老子のことば)

- ① **樸のまま抱く** 樸⇒荒木・原木
 製材され整えられたら受け取る……手遅れ
 原木がそのまま抱き止められること
 「何で相談もっと早く相談しなかったの」
 困窮者⇒相談しない
- ② **抱き止められた原木には可能性がある**
 杖となり、家具となり、役割を果たす
 「何がしたいの？」困窮者⇒自分の可能性がわからない
- ③ **絆は、傷を含む**
 原木であるゆえに刺々しくもある。抱く者は時には傷つく。
 「絆は、傷を含む」……傷ついても抱いてくれる人がいるか？
 ※社会とはより多くの人々が健全に傷つくための仕組み

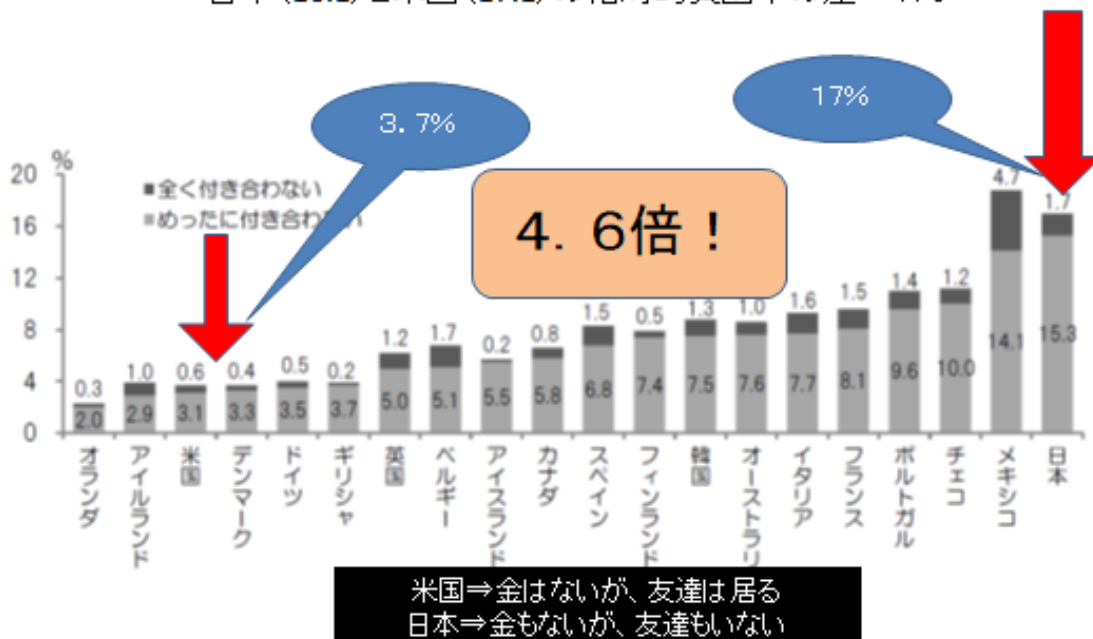
「二つの困窮概念を持つ支援
 —『経済的困窮』と『社会的孤立』とそのスパイラル」

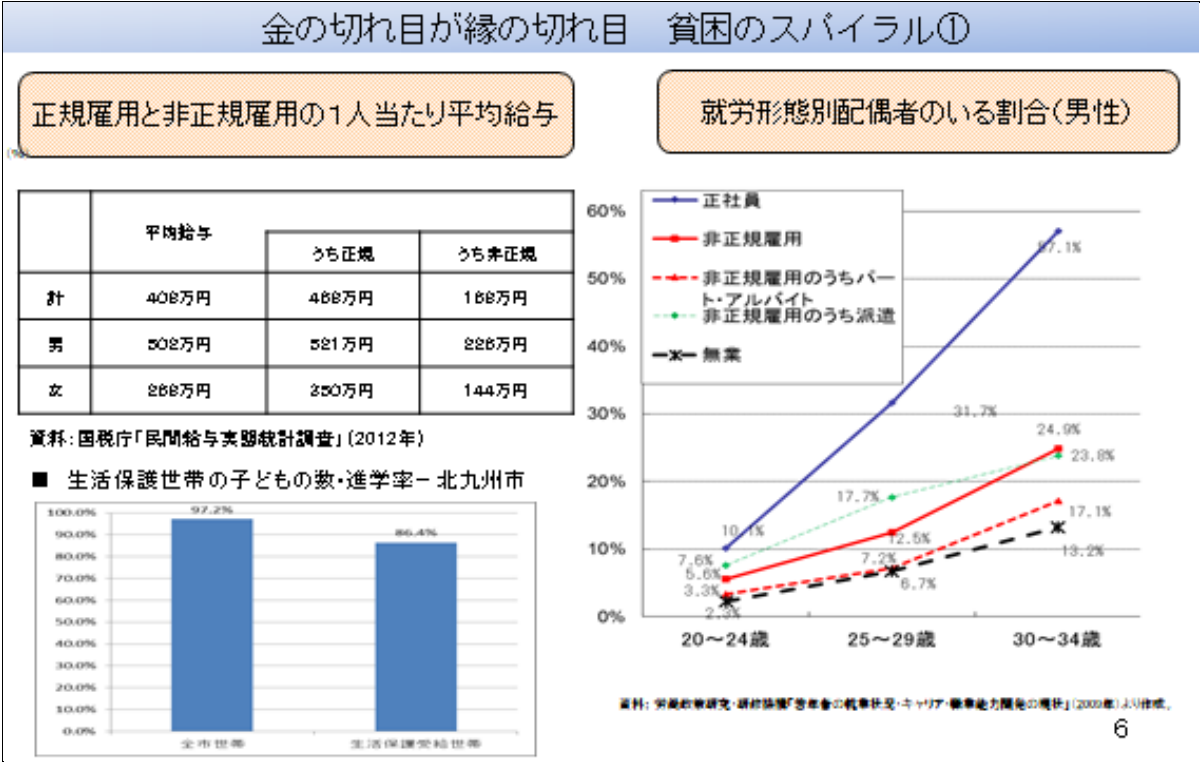
経済的困窮・ハウスレス支援・・・なにが必要か
 社会的孤立・ホームレス支援・・・だれが必要か

ホームレス化する社会
 ※ある襲撃事件「ホームレス中学生」の存在
 「家があっても帰るところがない」
 「親はいても誰からも心配されていない」

社会的孤立の調査 OECD諸国の比較

日本(16.1)と米国(17.1)の相対的貧困率の差⇒1%





縁の切れ目が金の切れ目 貧困スパイラル②

②縁の切れ目が金の切れ目

⇒西原さんが野宿になった理由

- 人は、何のために働くのか ⇒ 誰のための働くのか
- 伴走型支援とは ⇒ 物が物語となる支援
- ⇒ 炊き出しの弁当と残飯の弁当(エサ)の違い
- ⇒ 物に人が関わることで物語化
- ※ある母子家庭 ⇒ 何を食べたかではなく、誰と食べたか



決定的な事件—2005年5月西鉄バスジャック事件

「いじめが原因で中学三年の夏ごろより荒れ始め、まるっきり違う人格のようになり、家庭内暴力になって、何か違う方向へ行く危険性もあり不安でした。

親が気づいても病院の受診がない、診療したことがないからなどと断られる。医師、児童相談所、教育センター、教育相談所など、いろいろ回りましたが、動いてくださる先生は一人もいらっしゃらない。

入院して20日あまり。まじめでおりこうさんを装っているとのこと。何を考えているのか、大きな不安に包まれています。入院当日、「おぼえているよ、ただではおかないからな」という言葉が忘れられません。心が開けない状態で退院となれば、今まで以上に暴力がひどくなるのではと不安です。心の闇がもっと広がるような気がします。このまま自分を封じ込めた闇の中で一生を終わってほしくありません。

しかし、一筋なわでいかない強さももっていて、繊細で、敏感で、私たちの行動を見抜いて動いているようなところもあります。入院先に先生にお任せするしかありませんが、退院後の不安が強すぎて力がわいてこないのです。」

8

○助けてと言える社会の実現のための3つステージ

1) 第一ステージ……いのちという普遍的価値

相模原事件の時代⇒分断線

⇒「意味のあるいのち」と「意味の無いいのち」の分断

⇒支援の罫・・・「良いホームレス」と「悪いホームレス」

⇒生産性の有無 経済至上主義と自己責任論社会

⇒生きることに意味がある

ある講演会で・・・質問「生きる意味とは何ですか？」

第一の事柄と第二の事柄……

※自立は、第二の事柄

9

2) 第二のステージー相談支援の二つの意義

①問題解決……処遇の支援

②相談そのもの……存在の支援

問題解決、無問題状態を目指す故に起こる権利侵害

※失敗する権利を侵害

ガードレール型支援とセーフティネット型支援

※抱樸が陥った罠

「いいホームレス」と「悪いホームレス」という分断

「人はいつか変わる」と「人は変わらなくても生きる」

※伴走支援……この二つの間で身を割かれ続けること

10

3) 第三のステージー価値の創造

解決する問題と解決しない問題が存在する

自身の経験から……潰瘍性大腸炎(難病)を得て

解決しないけど生きているという意味

貧すりゃ鈍する⇒貧すりゃ考える、貧すりゃ出会う



北九州市内の小学校にて、空き缶の見分け方を教えて、その後「見分け方大会」を開催。

生笑一座公演風景

生笑⇒「生きていれば、笑える日がくる」

価値転換
「無駄じゃなかった」



講演後、子どもたちと一緒に軽食をご馳走になる。⇒

11